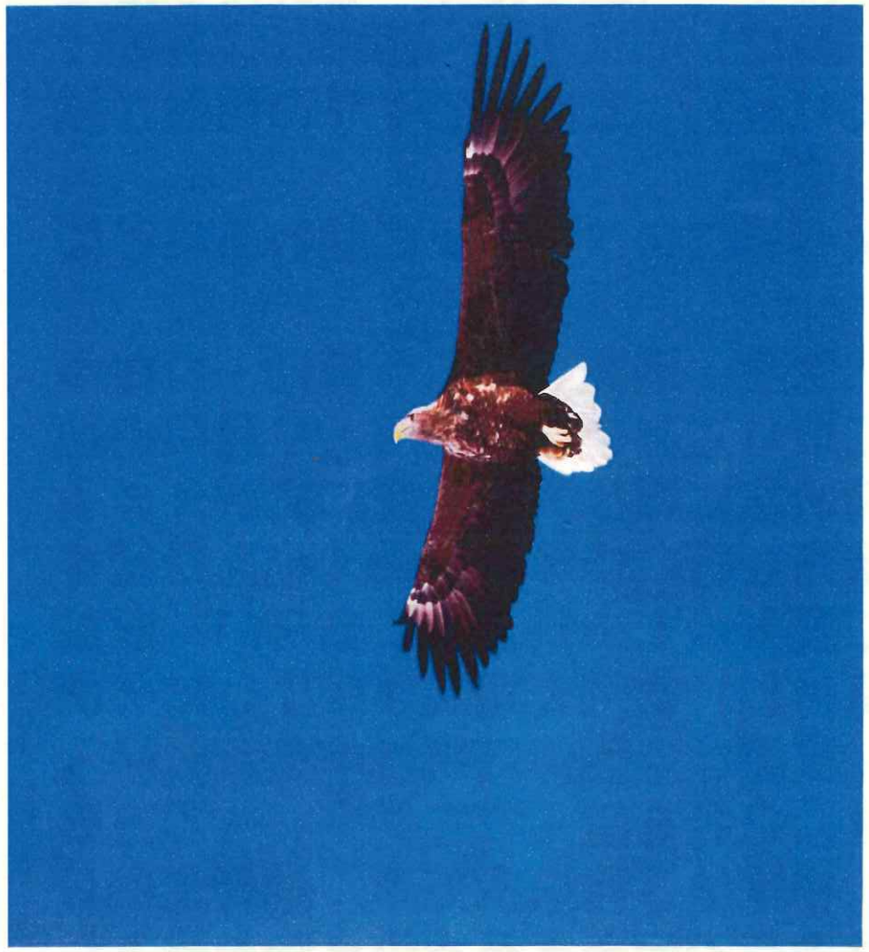
SENSHOJI
2022 YUKARI NEWSLETTER
since 1994

ゆかり通信
VOL. 289
令和４年２月

北海道千歳市清水町1-14　鶴寶山 千正寺
TEL:0123-23-2442　FAX:0123-24-9883
ホームページ http://sensho-ji.net/　フェイスブック @Senshoji

２０２２年千正寺カレンダー　２月の言葉



大空の雄姿、千歳に舞う／オジロワシ

人は誰でも、多くの人々の力を借りて成長するものである。
人の力を遠慮なく借りればよい。
どうしても借りるのが嫌なら、あとでゆっくり返せばいい。
（玄侑宗休氏）

今月の言葉は、福島県在住で小説家、臨済宗の僧侶玄侑宋休（げんゆう・そうきゅう）氏です。臨済宗妙心寺派福聚寺の長男として生まれましたが、大学を卒業後は様々な職を転々とした後「中陰の花」という作品で第１２５回芥川賞を受賞した作家兼僧侶の方です。

人の力を借りずに自分の力だけで物事を解決したいと思うのは誰もがそうではないでしょうか。「迷惑をかけたくない」「借りを作りたくない」など出来るなら自分の力だけで終わらせたい。それができる場合なら問題ないでしょう。ですが、そうできない場合も多々あります。

恥ずかしい話ですが、私は学生時代、特に人気のある生徒というわけではありませんでした。そんな私が学校祭のクラス展示物の責任者を割り当てられました。クラスの展示物は、各自で葉書きサイズの板に書かれた絵の一部を彫刻し、最後、全員あわせて大きな作品にするといったもの。私はその取りまとめをする役だったのですが、これが悲しいほど進まない。授業でやるのなら先生が取りまとめるので生徒たちも聞いてくれますが、特に成績に関係しない作品なので、やんちゃな数名の生徒たちは提出してくれません。作品を歯抜けにする訳にもいかず、かといって作品を催促する勇気もない。

結局、私は放課後は一人残って何枚も作品を削ることになりました。なんで僕がこんなことしくちゃいけないんだ。だから責任者なんてやりたくなかったんだ。という言葉が頭を巡りました。しかし学校祭まであと数日。とても終わらない作業量に気持ちは焦りますが、そういった場面で誰かに頼る経験をしたことない私は周りに声をかけることができませんでした。

そんな最中、自分の席に積み上げられた板を黙々と削っていると、ある一人の女の子が僕の席に近寄り、「手伝おうか？」と声をかけてくれました。正直びっくりしました。なぜなら今まで話したことがない子だったからです。

とっさに「えっ、いいよ。悪いよ」と答えてしまう僕に「だって終わらないよ」と告げ、下書きだけが書かれた板を自分の席に持っていき、作業してくれました。面白いものでそうなると、面倒そうなことやってるなと思っていたであろう友達が、「なにやってるの？手伝おうか？」とさらに加わり、到底間に合わないと思っていた作品が無事にできあがりました。きっと皆さんも似たようなことは経験したことはあるのではないでしょうか？

「人は誰でも、多くの人々の力を借りて成長するものである。人の力を遠慮なく借りればよい」人一人の力で解決できることもあるでしょうが、限界があります。どうやっても自分の力だけでは乗り越えられないこともあるでしょう。そんな時に力を借りるのは弱さなのでしょうか。誰もが年齢を重ねると体は不自由になってきます。もしかしたら親世代の介護が必要になってくることもあるかもしれません。そんな自分の力を見極めて、助けを受け入れる勇気もきっと必要なことであると思います。

（文：行武秀明法務員）